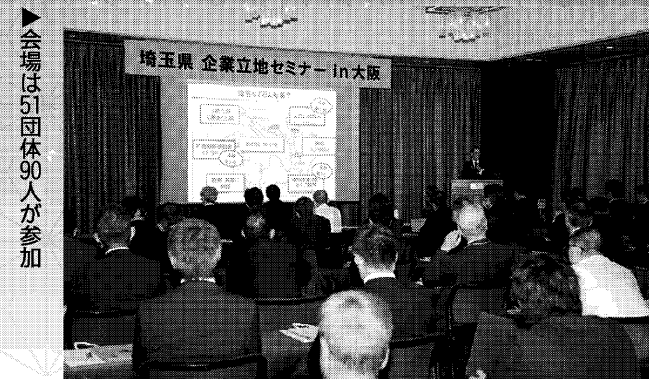


企業立地、埼玉が一步先

令和7年度 埼玉県企業立地セミナーin大阪

埼玉県は11月19日にホテルモントレグラスミア大阪(大阪市浪速区)で、「埼玉県企業立地セミナーin大阪」を開いた。大野元裕知事が企業立地する際の埼玉県の優位性を説明。さらに、A.T. Marketing Solution(東京都中央区)の高田敦史代表が「ブランドコンサルタントが見る埼玉県の魅力」をテーマに講演した。その後、藤間隆川島町長、神田隆吉見町長、大澤建孔美里副町長が地域の魅力や開発中の産業団地を積極的にアピールし、立地を呼びかけた。セミナーはオンラインでもライブ配信し、会場は51団体90人、オンラインでは約70人が参加した。

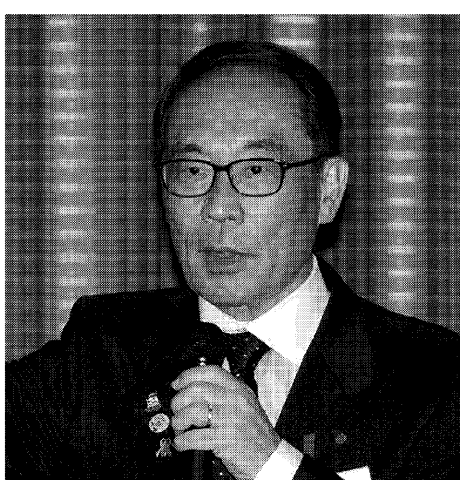


進出後も徹底バックアップ

埼玉県は首都圏に位置し、交通や人材、産業の面で企業活動に便利な環境を備えている。中でも特に企業が注目する強みは三つある。第一は、首都圏の交通の要衝という地理的特性だ。県内から公共交通を利用すれば、一時間で首都圏4400万人だけでなく、北日本・東日本の5000万人、6000万人にアクセスできる。支社や工場、物流拠点として選ばれる理由の一つだ。

次に、安心・安全な事業環境を提供できることだ。埼玉県は全国の中でも自然災害が少なく、南海トラフ地震を想定した際の建物被害も近隣県より少ないとされる。さらに快晴日数は全国一位で、天候による事業停止のリスクが小さいことも企業活動にとって利点となる。

三つ目は、企業が必要とする人材や施設、制度を活用して効率的に事業を進められる環境が整っていることだ。総人口約734万人を背景に、「企業人材サポートデスク」や「プロフェッショナル人材戦略拠点」を整備し人材確保を支援している。



大野 元裕 知事

立地企業への支援策としては「産業立地促進補助金」をはじめ、事前相談から操業後のフォローまで一貫して支援しており、オンライン相談窓口も設置している。さらに「ワンチームRich埼玉」により、立地企業・応援団企業・県市町村が連携し、ビジネス機会の創出や課題解決を支援している。交流会の開催などを通じて、立地後も継続して伴走し、企業の立地や創業が円滑に進むよう全力で支援する。埼玉の利便性と特性を生かし、持続的な成長をもとに実現していきたい。

都心近郊で埼玉が存在感

生活者から見た埼玉県の魅力は何か。これを考えるにあたり、国民的アニメを通してその変遷を振り返る。1950年代を主な舞台とする『サザエさん』の磯野家は東京都世田谷区に、1970年代の『ドラえもん』の野比家は東京都練馬区に、1990年代の『クレヨンしんちゃん』の野原家は埼玉県春日部市に居を構えた。世田谷から練馬、そして春日部への居住地の移動は、首都圏における人口の郊外化を象徴している。

埼玉県は首都圏中央連絡自動車道(圏央道)、関越自動車道、東北自動車道といった主要幹線道路に囲まれ、交通の要衝としての役割を担う。戦後の団塊世代とその子どもたちである団塊ジュニ



A.T. Marketing Solution 高田敦史 代表

アが形成した郊外文化は、1990年代に家族で仲良く買い物やレジャーを楽しむ「親子消費」というトレンドを生み出し、ミニバンブームなど自動車業界の家族向け需要にもつながった。そして今、東京都心部の地価高騰の影響により、30代から40代前半の子育て世代が埼玉県をはじめとする郊外に移住する動きが再燃している。

734万人の人口をかかえる埼玉県だが、東京都心へのアクセスは良好で、通勤時間が30分から45分というエリアも多い。

さらに県内には多くの企業の拠点やサテライトオフィスも多く、埼玉県自体がビジネス拠点としての機能も持つ。加えて、身近にある公園や緑地といった自然環境が、家族の暮らしを豊かにしてくれる。

子育て世代にとっては、充実したレジャー施設や秩父のような観光地も魅力ではあるが、自宅の近くに自然に触れ合える環境があることは、子育て期の家族にとっては何ものにも代え難い価値であり、東京の都心部では得られないことだ。

埼玉県の魅力は、首都圏における機能的価値と情緒的価値が共存している点にある。機能的価値とは、東京都心へのアクセスの良さや日常生活インフラの充実であり、情緒的価値とは、家族の交流が深まり、みんなの笑顔が増えるということだ。まさに自治体界の大谷翔平といえる、二刀流の魅力を持つ地域だ。

物流・経済活動で高い利便性



川島町・藤間 隆 町長

川島町は人口約1万8500人の小さな町だが多くの魅力がある。全国の人口の約3分の1を占める首都圏のほぼ真ん中に位置していることから、積極的な経済活動が期待される。鉄道路線は敷設されていないものの、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)川島インターチェンジ(IC)が整備されており、関越自動車道の練馬ICから川島ICまで約25分で接続できる。さらに東名高速道、中央自動車道、東北自動車道、常磐自動車道の各方面へ広域的にアクセスできるため、物流や経済活動の面で利便性が高い。

町の周辺には約52万人の生産年齢人口が在り、企業にとって人材確保の面でも利点がある。また、昼夜間人口比率が高く、2020年の国勢調査では109.2%と、全国平均の102.5%を上回り、日中の経済活動が盛んだ。全国で「消滅可能性都市」への対応が急務となる中、持続可能な自治体であり続けるための重要なポイントだ。

川島町は四方を河川に囲まれているため、継続的に国や県と連携した治水対策を進めてきた。2019年に発生した台風19号では近隣で大きな被害が生じた一方、町内で顕著な被害は確認されなかった。台風後には河川の生産量は県内トップで、県が開発したオリジナル品種「あまりん」をはじめ、「べにたま」など多様な品種が生産されている。

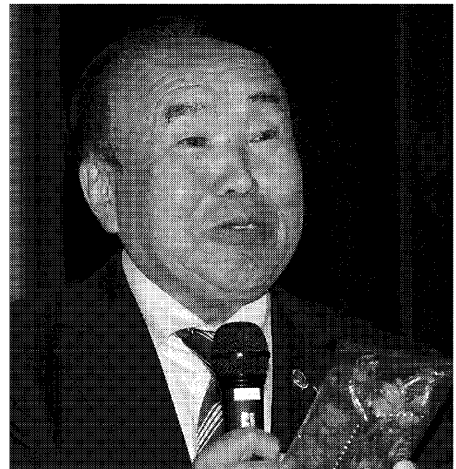
町では企業誘致を積極的に進めており、県企業局と連携して「大和田地区産業団地」を開発中だ。面積は約17.2秒で、事業用地は分割利用も可能だ。

交通の利便性も高い。関越自動車道・東松山インターチェンジ(IC)から約8.5分、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)・桶川北本ICから約5分、川島ICからも約6分に位置し、首都圏や全国の主要都市へのアクセスが良好だ。公共交通も整っており、バス停は産業団地のすぐ隣に位置し、朝夕の時間帯では1時間に約4本運行。東武東上線・東松山駅まで約16分、JR高崎線・鴻巣駅まで約7分到着するなど、通勤にもたいへん利便な立地だ。

企業支援制度も充実している。吉見町では、企業立地奨励金として、土地や建物の固定資産税に相当する額の一部を3年間助成する制度を用意している。また、町内の住民を新規に雇用した場合には、1人につき10万円、最大300万円まで支援する雇用奨励金もある。こうした制度は、企業が安心して事業を進められるよう設けられている。

町内にはすでにコカ・コーラボトラーズジャパンをはじめ、製造業、物流業、食品業など幅広い分野の企業が進出しており、地域の雇用と産業を支えている。町は企業との協力関係を重視し、地域経済の活性化に取り組んでいる。

企業の挑戦を支える充実支援



吉見町・神田 隆 町長

吉見町は埼玉県のほぼ中央に位置し、東京から車で約1時間の距離にある。人口は約1万7000人で、自然に囲まれた落ち着いた環境が広がる町だ。町内には国指定史跡で古墳時代末期の横穴墓群「吉見百穴」があるなど、数々の史跡が多く残る。さらに、いちご

都圏中央連絡自動車道(圏央道)への一定の利便性を保ちながらも、土地取得の負担が抑えられている点が強みだ。民間による土地取得想定価格は東京外環自動車道周辺が坪100万、200万円、圏央道が約40万円とされる中、美里町は坪10万円台前半とされる例が多い。立地コストを抑えつつ利便性を確保しやすい環境といえる。

人材確保の面での利点もある。2020年の国勢調査では、美里町外へ通勤する住民が3168人、逆に町外から町内へ通勤する人が4321人となっている。人口規模は大きくないが、広域的に働き手を確保できる環境にある。

災害にも強く、地盤が安定しており液状化や沈下の心配が小さいとされている。南海トラフ地震の想定震度は5弱で、大きな揺れは見込みにくい。また首都圏各地で地下水揚水規制が厳しい中、美里町は規制区域外であり、水を多く使用する企業にとって一層利便性が高い。

美里町は今後の人口減少を見据え、役場や駅、高速道路インターチェンジが集まる区域を「まちづくり中心拠点」として整備している。この取り組みは埼玉県の「埼玉版スーパーステッププロジェクト」に認定され、県から支援を受けている。あわせて、埼玉県企業局が産業団地の整備を進めており、企業立地を支える基盤が形成されつつある。

周辺では教育・生活環境の整備も進む。中学校に加え、町内に分散する三つの小学校を同中学校周辺に統合する計画があり、統合小学校の建設が進行中だ。JR八高線・松久駅北側では商業施設の開発も計画中だ。

美里町には多くの可能性とチャンスが広がっている。企業の皆さまに気軽に相談していただきたい。

コストと利便性を両立できる立地



美里町・大澤建孔 副町長

美里町は埼玉県北部に位置し、人口約1万1000人。農業が盛んでブルーベリーを特産とする一方、多くの古墳や伝統芸能が残るなど、歴史文化も厚い地域だ。

産業用地としての特徴は、土地取得のしやすさと交通面のバランスにある。美里町は首

河道掘削や樹木伐採などが実施され、浸水被害への対策が一層強化されている。また町内の水田が調整池としての役割を果たしていることから、川に囲まれながら水害に強い町としての特性を備えている。

川島IC周辺では、これまで約53秒の産業団地の分譲が完了している。また、IC南側地区では用地開発を順次進めており、先行する約20秒について来夏からの造成を予定し、製造業を中心に企業誘致を進める。続いて、約40秒の開発を計画しており、地域未来投資促進法の活用を念頭に、関係機関との調整を進めている。

川島町は企業の皆さまとしっかり連携し、進出前の相談から進出後のフォローも途切れなく実施中だ。企業の皆さまのニーズに応じた支援力を入れているので、是非お気軽にご相談ください。